

第54回バリアフリー推進勉強会／要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

観光とバリアフリー、ユニバーサルツーリズムを考える ユニバーサルツーリズムを推進する自治体の取組み



KNT-CTホールディングス




要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

自己紹介

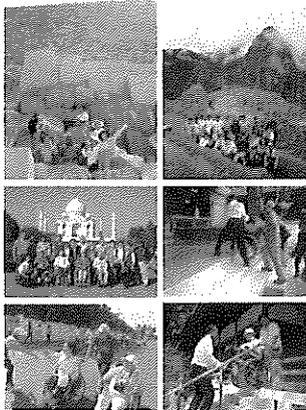
1997年より21年間、要介護高齢者及び 障がいがある方の旅行に携わる。

伴流高志（ばんりゅうたかし）

会社：株式会社近畿日本ツーリスト首都圏 団体旅行部
個人：任意団体ユニバーサルツーリズム・プラットフォーム&勉強会
資格：介護福祉士、福祉用具プランナー、福祉住環境コーディネーター2級、
四国八十八か所霊場会公認先達、総合旅行業務取扱主任者、
総合旅程管理者（添乗員）

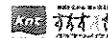
職歴：

- 2018年 株式会社近畿日本ツーリスト首都圏・団体旅行部（12月～）
- 2016年 クラブツーリズム株式会社ユニバーサルデザイン旅行センター
- 2015年 株式会社JTB総合研究所入社・ユニバーサルツーリズム推進
- 2008年 株式会社エイチ・アイ・エス入社 バリアフリートラベルデスク
- 2006年 あ・える倶楽部（SPI株式会社）入社 旅部門担当（介護旅行）
- 2004年 近畿日本ツーリスト株式会社よりクラブツーリズムカンパニーへ
- 1997年 近畿日本ツーリスト株式会社クラブツーリズム入社
バリアフリー旅行センター（福祉課）
- 1994年 株式会社ユナイテッドトラベルスタディサービス(UTS)入社
*入社後、1995年に障がい者旅行の存在を知る。



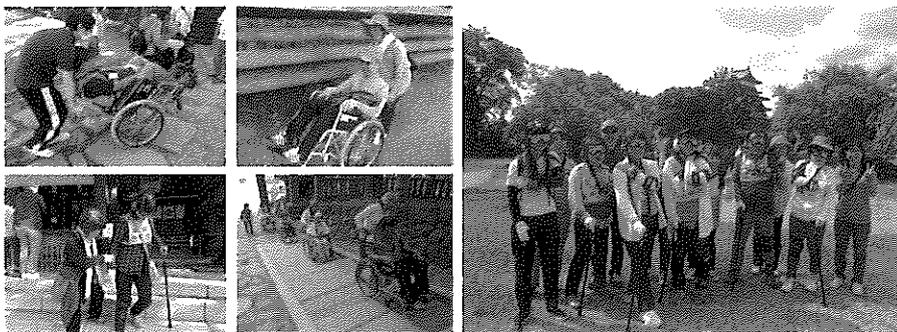
2

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方



・ 本日、お話しする内容

2016年から始めた、 地域トラベルサポーターの 取り組みについて



3

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方



・ 本日、お話しする内容

2016年から始めた、 地域トラベルサポーターの 取り組みについて

本活動は、要介護高齢者及び、障がいがある方等で旅行中に配慮（介助）が必要な方が、より安全で快適な旅をしていただくために、必要な身体等の介助を旅先のみです人材育成と人材紹介を行います。また、観光や福祉関係の従事者で、これから新たに障がいがある方の旅行に関わろうとされている方のために、最低限知っていただきたい『要介護高齢者や障がい者旅行に関する基礎知識』を学んでいただく講座を実施しています。そして、ユニバーサルツーリズム発展のために、今後欠かせない『地域（着地型）トラベルサポーター』をひとりでも多く輩出し、**（1）旅行中における要介護高齢者への必要な介助（身体介助を含みます）による安全で快適な旅のご案内、（2）サービス利用者の旅行における経済的負担改善、（3）受入地域における新しい雇用の創出、（4）受入地域の介護事業所との連携（新規事業の創出）**を推進していきたいと考えています。

4

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方



・ 本日、お話しする内容

2016年から始めた、 地域トラベルサポーターの 取り組みについて

2020年以降の障がい者及び要介護高齢者の旅行の中心は、個人旅行化が更に進み、主な旅行介助は、『地域トラベルサポーター』が担うことが考えられます。

地域トラベルサポーターのメリットは、『①旅行代金の負担が少なくてすむ』、『②観光地のバリアフリー旅行情報に詳しい』、『③ちょっとした介助に対応できる（入浴介助など）』などが挙げられます。認知症患者の外出支援等、活動の範囲は旅行業を超え、多岐に渡ってきます。

5

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

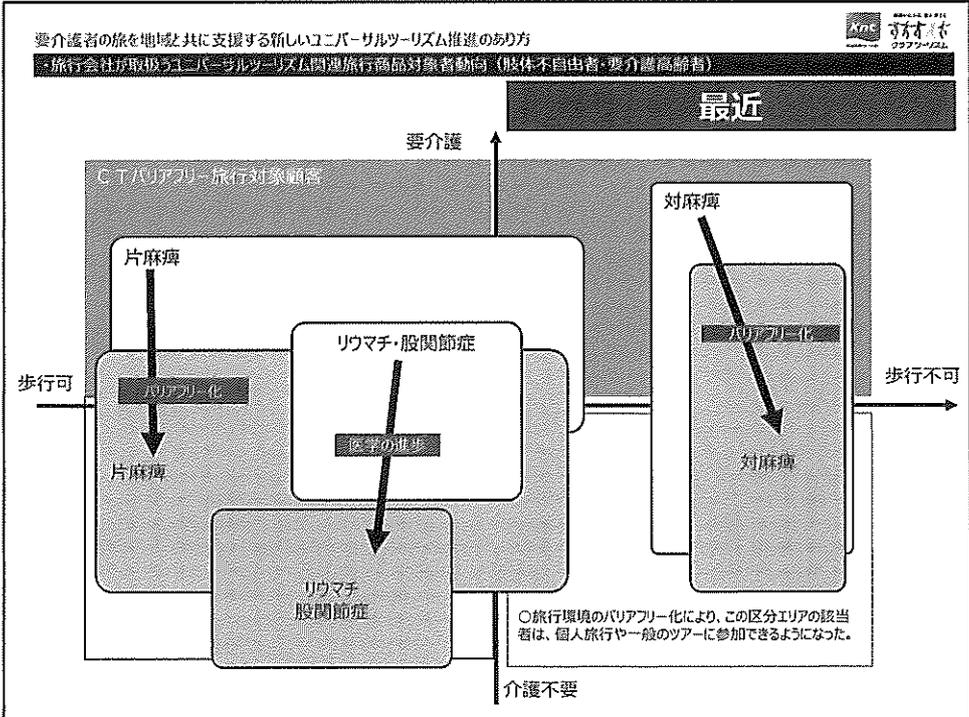
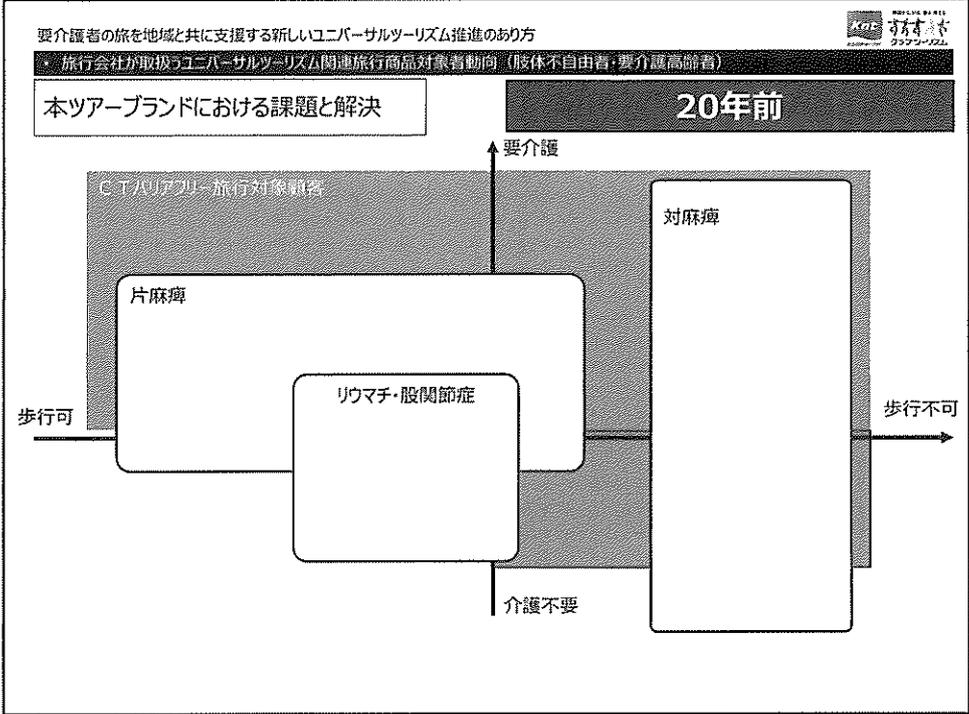


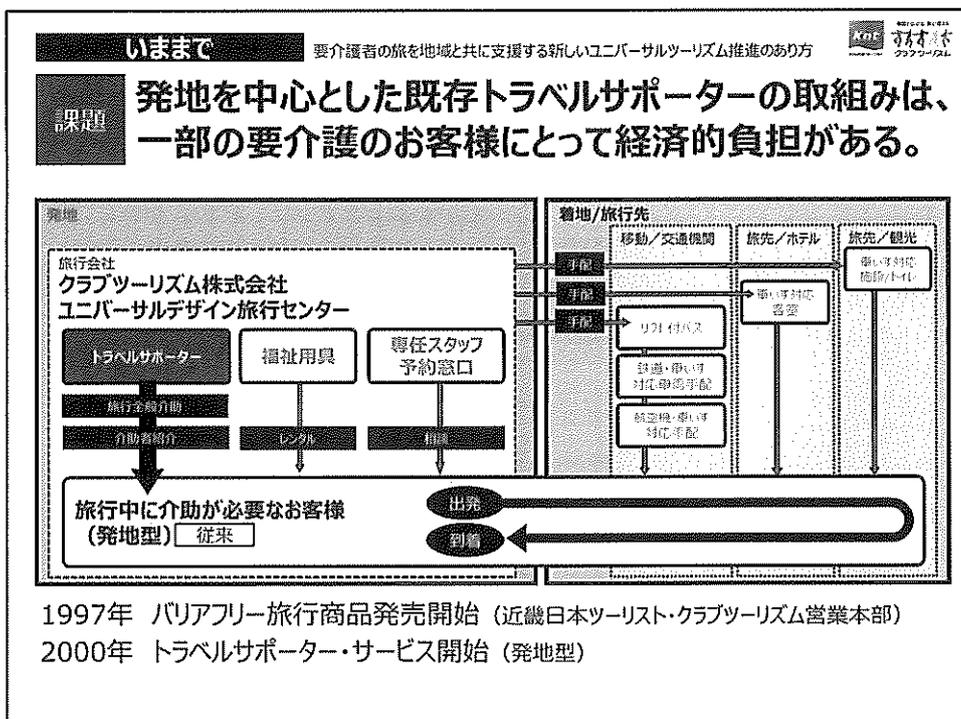
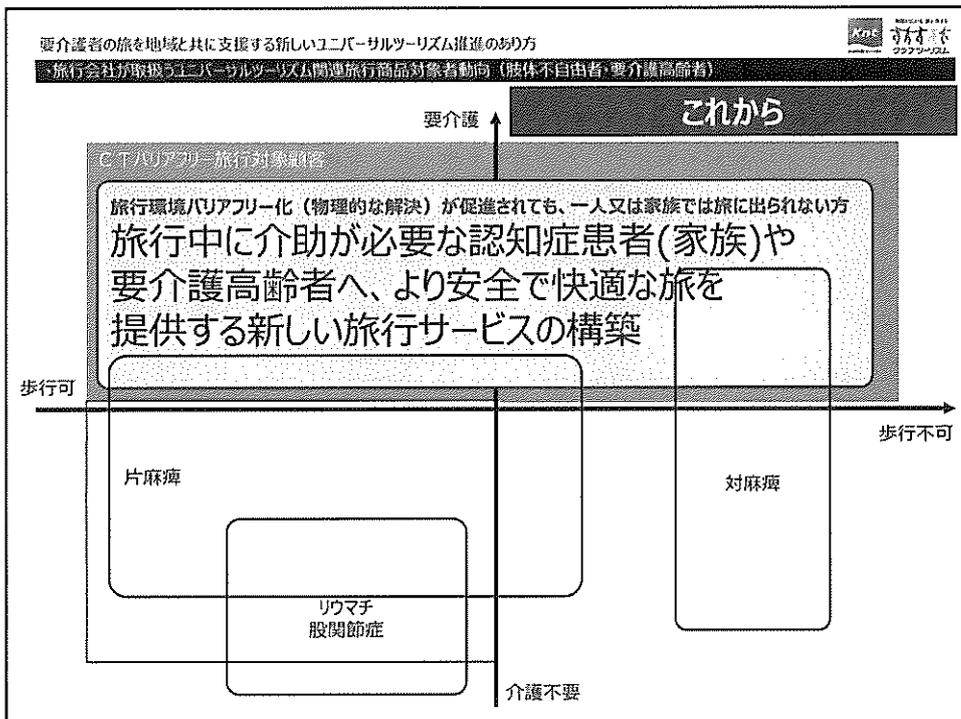
・ 本日、お話しする内容

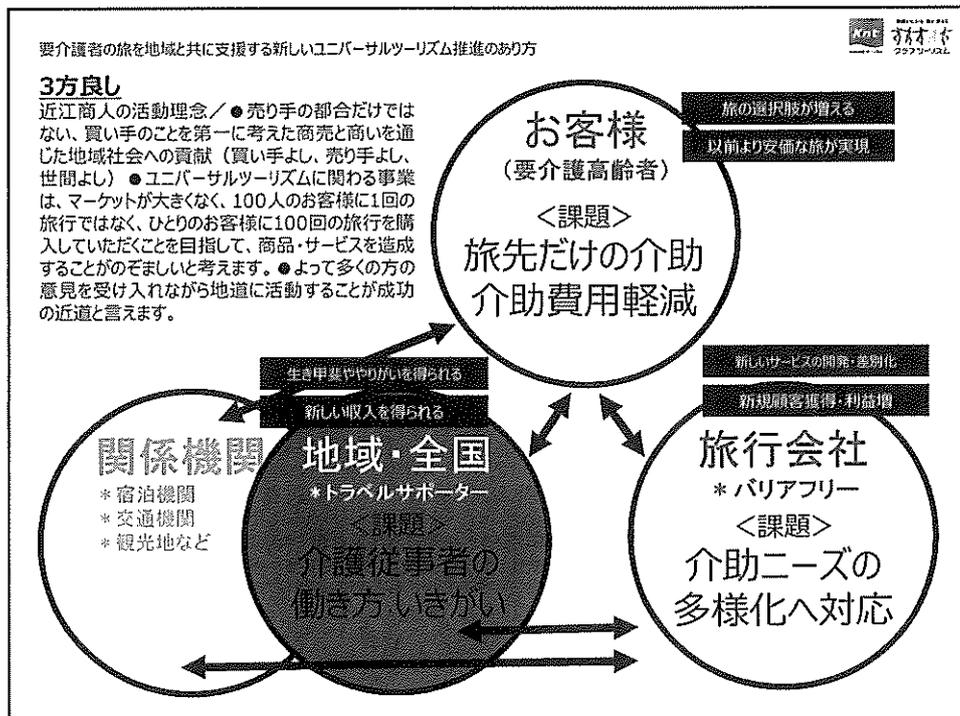
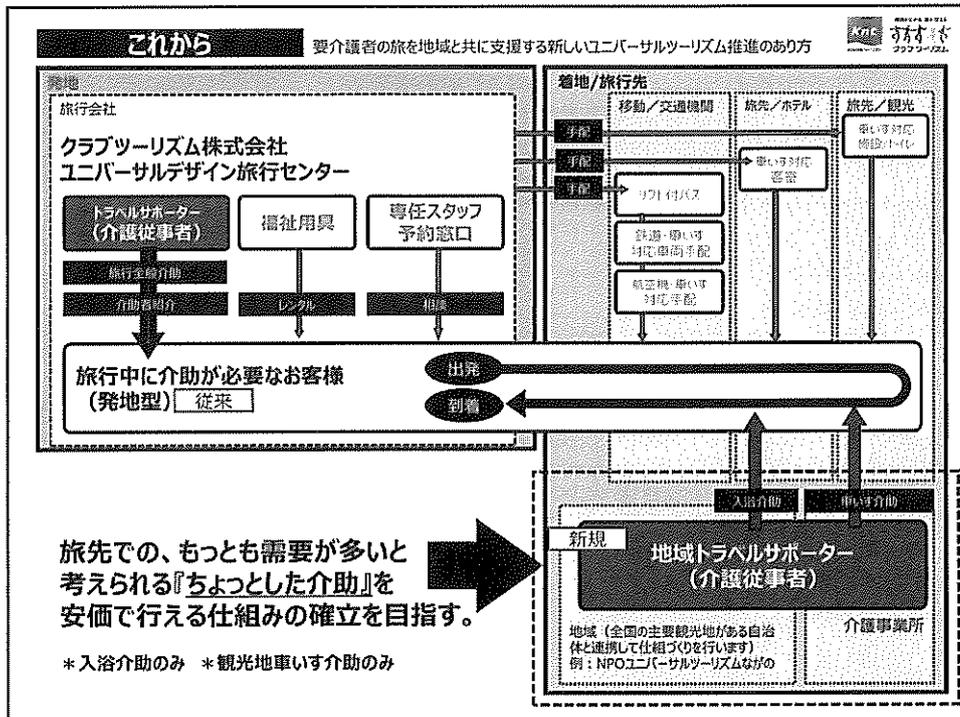
2016年から始めた、 地域トラベルサポーターの 取り組みについて

- * 活動のきっかけ
- * 活動する価値・意義
- * 活動内容
- * これから

6







要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方 旅のちから～障がいがあっても

旅で、お客様の課題を解決していく（病氣やケガをしても、自分らしい人生をおくる。）

価値 「平均寿命と健康寿命の差異期間（要介護期間）」を自分らしく、いきいきと輝くための取組み

この期間をどう生きるか？

平均寿命と健康寿命の差：2013年

男性	平均寿命	80.21
男性	健康寿命	71.19
女性	平均寿命	86.61
女性	健康寿命	74.21

(注) 平均寿命は厚生労働省「平成25年簡易生命表」
健康寿命は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」*厚生労働省「厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会資料」（平成26年10月）

13

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方 旅のちから～障がいがあっても

旅で、お客様の課題を解決していく（超高齢社会における社会の課題）

価値 超高齢社会での社会課題を旅を通して解決する。

2018～2025年	旅（地域トラベルサポーター）で解決していく様々な課題
①健康寿命がのびる *平均寿命ものびる	● 差異期間をより豊かに生きる為の余暇活動が多様化する。
②要介護高齢者増加 *介護人材の増加	● 要介護度毎に応じた多様な介護旅行が必要になる。 ● 介護人材も増加する為、外出支援の技術向上が必要になる。
③2025年問題	● 団塊世代の後期高齢化により、比例して要介護高齢者が増加する。 * 団塊の世代が75歳以上になる。
④平成30年問題と 介護業界が抱える課題	● 要介護1～2の外出支援・生活支援が保険適用外になり、関連企業が新規事業を始めるようになる。 ● 業界の給与水準の向上（保険外事業の推進がもたらされる）
⑤2020年オリパラ	● 訪日外国人、東京を訪れる障がい者や要介護高齢者を支援する仕組みが必要になる。 ● サービスの質を向上させる為の介護人材育成が必要になる。
⑥認知症患者増加	● 認知症患者家族の「生活の質（余暇活動の充実）」を向上させるためのレスパイト旅行が必要になる。

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

・旅で、お客様の課題を解決していく（介護予防）

価値 **旅の効能／旅することに困難を感じている人ほど効果（価値）がある。**

- ① 普段できない新しい体験をすることで、新しい価値観や学びを得られる。
- ② 旅先での出会い等が、新しい社会の側面を知る機会となり、社会の一員を実感。
- ③ 気持ちが上向き（前向き）になり、精神的受容量が大きくなる。
- ④ 意見を求められたり自己責任が必要となる場合もあり、自信をつける機会になる。
- ⑤ 自分の行動を自身でコントロールする（できる）機会になる。
- ⑥ **昔のことを思い出して、人生を振り返る機会になる。**
- ⑦ **「また行きたい」という気持ちが芽生え、次の旅に向けて新しい希望を持てる。**
- ⑧ 介護予防

（前旅、中旅、後旅で、心身活性化スパイラル認知症予防及びフレイル効果があると考えられている）＊「フレイル」とは、自立した生活を送っているが、わずかなストレスで要介護に陥ってしまう状態。例えば、体調不良で数日寝込んだらそのまま寝たきりになってしまう状態。＊旅行計画、事前の情報収集、旅行準備（旅先での行動を想像）、旅行中の様々な経験（学び、感動体験、出会いなど）、旅の思い出話を他人に話す。写真の整理等。

⑨ **旅のリハビリ効果（主に運動機能向上への影響）**

＊見知らぬ土地や旅先での新しい出会い、日常生活とは異なる不便な環境から起こる課題を自分の力で克服する。→旅行がきっかけになり積極的に自立的な活動をする人が多く見受けられます。

15

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

・地域トラベルサポーターの取り組み

登録 **登録者数：長野県内180名（2018年度200名予定）**

今後は、東京・神奈川・埼玉を中心に登録者数を拡大予定

2019年04月 第14回地域トラベルサポーター養成講座in埼玉県（19回シリーズ／通年）

2019年02月 第13回地域トラベルサポーター養成研修in南信州（4回シリーズ）

2018年11月 第12回地域トラベルサポーター養成研修in松本（4回シリーズ）

2018年05月 第11回地域トラベルサポーター養成研修in安曇野（4回シリーズ）

2017年10月 第10回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（4回シリーズ）
＊第3回長野県地域発元気づくり支援金活用事業

2017年08月 第9回地域トラベルサポーター養成研修in岡谷（6回シリーズ）

2017年07月 第8回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（4回シリーズ）
＊第2回長野県地域発元気づくり支援金活用事業

2017年06月 第7回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（4回シリーズ）
＊第1回長野県地域発元気づくり支援金活用事業

2016年10月 第6回地域トラベルサポーター養成研修in岡谷（16回シリーズ）

2016年08月 第5回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（ソーシャルネットワーク）

2016年07月 第4回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（ソーシャルネットワーク）

2016年07月 第3回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（ソーシャルネットワーク）

2016年06月 第2回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（ソーシャルネットワーク）

2016年06月 第1回地域トラベルサポーター養成研修in諏訪（ソーシャルネットワーク）

16

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方



・地域トラベルボーター養成講座で学ぶこと。

学ぶ

「要介護高齢者や障がい者旅行に関する基礎知識」 を学びます。(座学/2日間)

第1章 ユニバーサルツーリズムの基礎

第1章では、ユニバーサルツーリズムを学ぶ意義、その基本理念、そして、それまでの歴史的背景(年表)について述べてあります。

第2章 ユニバーサルツーリズムの現状

第2章では、ユニバーサルツーリズムの受入側の実際について学びます。旅行は、様々な交通機関や宿泊施設、観光施設を利用します。それぞれの場面において建築・設備の「ハード面」と人的サービスや福祉・医療面における「ソフト面」の組み合わせとなります。私たちの旅行環境は、まだまだ完全なバリアフリー化は実現していませんが、現状を知ることがとても重要なことだと考えております。

第3章 障がい別における旅行ニーズ&対応

第3章では、ユニバーサルツーリズムの主な対象となる人とそのニーズについて、様々な角度から説明していきます。ここで学んでいただくことは、対象となるお客様は、“様々”であること、それぞれのお客様が旅行に対して異なるニーズがあることです。また、お客様の理解を深めるために、生活的背景についても説明をしています。

第4章 ユニバーサルツーリズムの社会的資源

第4章では、ユニバーサルツーリズムに関する法律的事柄や諸制度について学習します。実務面でバリアフリー観光に携わる場合でも、これらの法律や制度の現状を知らずに業務を進めるわけにはいきません。

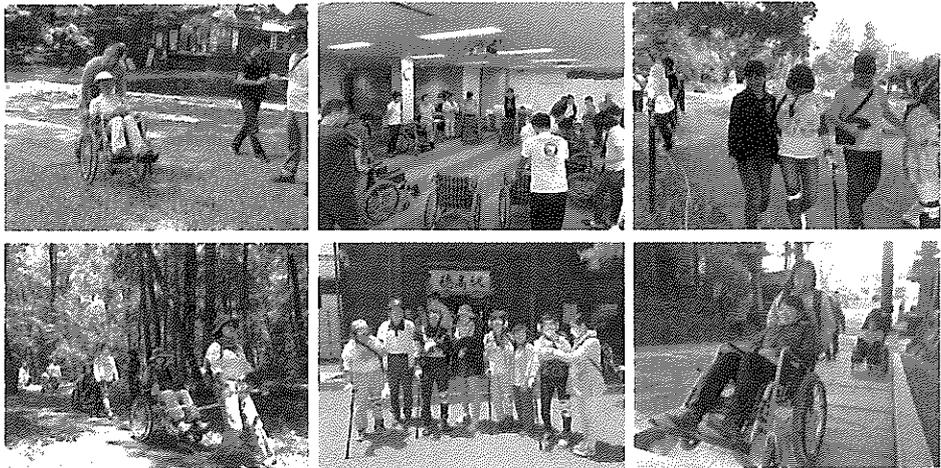
要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方



・地域トラベルボーター養成講座で学ぶこと。

学ぶ

屋外での車いす介助や高齢者疑似体験を中心に、 体験型のプログラムです。(実地/2日間)



要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

・ 地域トラベルサポーター養成講座で学ぶこと

実践 **クラブツーリズム株式会社・ドリームフェスティバル (イベント) とバリアフリー旅行内での活用**

19

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

・ 今後の展望

今後 **地域トラベルサポーターの 着地型旅行とインバウンド旅行への活用**

2000年	2016年	2018年	2020年
発地型トラベルサポーター (既存)			
(バリアフリー旅行に限る) 集合場所から解散場所まで			
(バリアフリー旅行に限る) ご自宅からご自宅			
(一般ツアーにも活用)) ご自宅からご自宅/集合場所から解散場所まで			
		着地型トラベルサポーター	
		主要観光地・主要エリアでの展開	
		着地型旅行での活用	
		インバウンド旅行での活用	
		海外展開 (東南アジア、東アジアを中心に実施)	

20

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

今後の展望

今後 地域トラベルサポーターの海外アウトバウンド（東南アジア・東アジア）への活用

21

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方

旅のちから〜誰がいても楽しめる旅のユニバーサルデザインとは

ユニバーサルツーリズムとは、図2のように、**すべての人が楽しめるよう作られた旅行商品・サービス（ユニバーサル旅行）**、又は、図1のように、**旅行形態毎（商品毎）にバリアフリー旅行、介護旅行、リハビリ旅行**により様々な対象者の要望に応える専用旅行の品揃えのこと。要介護高齢者や障がい者も参加できる旅行のことを「バリアフリー旅行」「介護旅行」と呼ぶが、ユニバーサルツーリズムは、これらの旅行商品も含める。年齢（Age）や性別（Sexuality）、言語（Language）、国籍（Nationality）、能力（Ability）にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できることを目指している。

（下図1と2は、旅のユニバーサルデザインへの2つのアプローチ）

ユニバーサルツーリズム

- バリアフリー旅行
- 介護旅行
- リハビリ旅行
- ユニバーサル旅行

図1

様々な商品で対応（バリアフリー旅行）

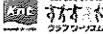
視覚	肢体 高齢	精神
聴覚		知的 など
		内部

図2

ひとつの商品で対応（一般ツアー）

視覚	肢体 高齢	知的 など
聴覚		内部
		精神

要介護者の旅を地域と共に支援する新しいユニバーサルツーリズム推進のあり方



＜補足資料＞ 要介護認定

要介護度	同行	内容
要介護 5	必要 2名	・身だしなみや居室の掃除などの身のまわりの世話ができない。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作ができない。・歩行や両足での立位保持などの移動の動作ができない。・排泄や食事ができない。・多くの不安行動や全般的な理解の低下がみられることがある。
要介護 4	必要 2名	・身だしなみや居室の掃除などの身のまわりの世話がほとんどできない。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作がほとんどできない。・歩行や両足での立位保持などの移動の動作が自分ひとりではできない。・排泄がほとんどできない。・多くの不安行動や全般的な理解の低下がみられることがある。
要介護 3	必要 2名	・身だしなみや居室の掃除などの身のまわりの世話が自分ひとりではできない。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作が自分ひとりではできない。・歩行や両足での立位保持などの移動の動作が自分でできないことがある。・排泄が自分ひとりではできない。・いくつかの不安行動や全般的な理解の低下がみられることがある。
要介護 2	必要	・身だしなみや居室の掃除などの身のまわりの世話の全般に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とする。・歩行や両足での立位保持などの移動の動作に何らかの支えを必要とする。・排泄や食事は何らかの介助（見守りや手助け）を必要とすることがある。・混乱や理解低下がみられることがある。
要介護 1	必要	・身だしなみや居室の掃除などの身のまわりの世話に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とする。・歩行や両足での立位保持などの移動の動作に何らかの支えを必要とすることがある。・排泄や食事はほとんど自分ひとりで行える。・混乱や理解低下がみられることがある。
要支援 2	△	・身だしなみや居室の掃除などの身のまわりの世話に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とする。・歩行や両足での立位保持などの移動の動作に何らかの支えを必要とすることがある。・排泄や食事はほとんど自分ひとりで行える。
要支援 1	△	・居室の掃除や身のまわりの世話の一部に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。・立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とすることがある。・排泄や食事はほとんど自分ひとりで行える。